



真夏の木陰 (糸田)

うたごよみ 葉月

〔短歌〕

米納三雄選

湯上りの肌をなで行く青葉風に身も心も爽やかになる
松本ぬい子

群れて飛ぶ螢の光明滅し命の乱舞に魅せられており
森田 房恵

あつという間に今月も過ぎ行きて歌の締切り明日となりぬ
内田乃武子

梅雨の雨烈しき朝を出勤の「孫等よ無事に」と祈って送る
井上ユリ子

梅雨晴れ間木々の若芽の萌え立ちて色付く空
上村 かず

一面に水面を揺らす早苗田のふる里なれど人影もなし
吉永由紀子

梅雨晴れを吹きくる風に踊るかも新樹は葉裏返しかがよふ
本田 隆章

サッカーのルール解らぬ吾なれば孫に習いて「行け行け日本」
上村やす美

梅雨の中下校の子等はおとなしく赤青黄色の傘並びゆく
内山タミエ

見ゆるもの蛍の光ただひとつ吾が眼たんぼに釘付けになる
緒方 明美

樹の下を行ったり来たり来たり来たりは梅雨に備えて休む間も無く
赤星 延子

枇杷の花汚れしものごと咲けど実をつけたるは黄金に映ゆる
田添 徳子

恋するか鴉は甘い声出して田の畦に来て鬼ごっこする
塚原 暁益

MRI撮ると機械に入れられて響き合う音怖々と聞く
本田富美子

喉元に剃刀当てて理髪師は政治の不満われに語りぬ
渡辺 幸士

〔川柳〕

〔七夕〕

七夕へ999で行けないか
成松 松枝

七夕を眺めているか天の娘は
布田 愛子

短冊に幸せですと書きました
古閑チヨミ

〔台所〕

炎が見えぬオール電化の台所
坂口 政子

台所かつては妻のテリトリー
林 雅之

台所もずるくなってる歳とって
福田 清子

〔むしむし〕

不快指数最高世情と梅雨後期
北 仁子

むしむしの背に爽やかなシャワー音
丸岡はる子

むしむしの梅雨いつ頃は上がるかな
道上キヌ子

〔胸〕

胸痛む打ち明けられる友が居て
伊豆野ヤエ

合格と知った便りに胸踊る
緒方 瑞枝

なで下ろす胸まだ確か動いてる
内村 邦炎

それぞれの胸に仏と鬼を飼う
渡辺 幸士

〔俳句〕

万緑や阿蘇高原の大風車
高田れい子

緑蔭に憩える嬬に会釋する
田端 慶子

春愁や友見舞う廊幾曲り
楠本 美鶴

梅雨墓参並びて合掌久の事
堀田 孝恵

新緑の吹き出づる榎朝の庭
本田 信子

花・野菜撒水多忙の朝夕や
古田 幸子

雨の庭青あじさいのあかりかな
本田サツ子

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎096・234・1111 (内線321)